

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	農業者が担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	農業者	①販売農家戸数	人	見込値	1,100	1,080	1,060	1,040	1,020
実績値					1,109	1,109				
					見込値					
					実績値					
					見込値					
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
		①市内の農業所得総額	千円	目標値	410,000.0	415,000.0	420,000.0	425,000.0	430,000.0	
				実績値	409,788.0	437,759.0				
		②認定農業者数	人	目標値	251.0	251.0	251.0	251.0	220.0	
				実績値	248.0	244.0				
		③耕作放棄地面積	a	目標値	4,245.8	4,200.6	4,155.4	4,110.2	4,065.0	
	実績値			5,003.0	4,847.4					
	④山林整備面積	ha	目標値	10	10	10	10	10		
			実績値	1	1.7					
	⑤有害鳥獣捕獲頭数	頭	目標値	500	500	500	500	500		
			実績値	581	850					
成果指標設定の考え方	農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。									
成果指標の把握方法と算定式等	①「市内の農業所得総額」－税務課の課税データ ②「認定農業者数」－農林課所管の認定農業者名簿 ③「耕作放棄地面積」－農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ④「山林整備面積」－農林課所管の森林整備事業実施面積 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」－農林課所管の有害捕獲計画									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①農業所得については、令和4年度409,788千円、令和5年度437,759千円、と増加している。原因としては、天候不順等の影響により野菜等の価格が上昇し、そのような中で出荷できた農家が多かったことが増加に繋がったと思われる。 ②認定農業者数は、令和4年度は248人、令和5年度は244人と4人減少した。これは、認定農業者の認定より認定農業者の離農が増加した為。また、認定農業者一人当たりの集積率は令和3年度が54.0%に対し、令和4年度が59.0%と増加したが、担い手の高齢化による離農・規模縮小や利用権の更新時期に当たり計上されない借入農地が増えた等の理由により令和5年度は57.0%は2%減少した。 ③耕作放棄地については、令和5年度は4,847.4aと前年度に比べ155.6a減少している。 ④山林整備面積は、令和4年度1.0ha、令和5年度1.7haで増加している。令和5年度は森林整備の他、森林作業道整備及び、茨城県でまん延しているナラ枯れ被害木の伐採等を実施したことにより森林整備面積が増加した。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和4年度581頭、令和5年度850頭で269頭増加している。		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の農業所得総額は、目標値410,000千円に対し、437,759千円と目標値を上回った。 ②認定農業者数は、令和5年度目標値251人に対し244人と目標値を下回った。 ③耕作放棄地面積は、令和5年度目標値4,200.6aに対し4,847.4aと、目標達成には至らなかった。 ④山林整備面積は、令和5年度目標値10.haに対し、1.7haと目標値を下回った。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和5年度目標値である500頭に対して850頭と目標値を上回った。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 ①地域計画策定事業 人・農地プランから地域計画へと移行されたなか、既存の人・農地プランを基に、集積・集約を進めつつ、担い手の後継者についての意向をまとめた目標地図を作成し、将来の担い手の在り方についての問題点の一部を可視化することができた。 ②農業経営支援事業 認定農業者等の担い手に対し、必要な農業機械やパイプハウス等の資材費補助を行い、経営の支援を行った。 ③儲かる産地支援事業 ICTや高性能機械など低コストで高品質な農産物が生産できる仕組の導入を進め、収益性の高い農業経営を実践する担い手の育成支援を行うことができた。	認定農業者は、減少傾向にあるが、量から質への転換し、生産性の向上や各種助成制度を利用して、効率的な農業経営の確立を図る。 担い手の高齢化については、新規就農者を確保し、地域農業を担ってもらうために、段階的な支援を実施していく。 耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、また補助事業等で耕作放棄地の解消を図る。 有害鳥獣対策事業のインシジョン捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。